

湖北病院及び湖北やすらぎの里 施設整備計画

令和5年9月27日

湖北圏域地域医療構想調整会議

1. 地域に求められる湖北病院が果たすべき役割

(1) 病院が担うべき役割

湖北病院はへき地医療拠点病院として地域に必要とされる医療に加え、医療と密接に関連する保健福祉の事業を実施しており、地域の暮らしそのものを支える健康政策・予防対策・介護福祉施策等との有機的な連携の取り組みを進め、地域包括ケアシステムを深化させる役割を担っています。

更に、医療の提供を通じて住み慣れた地域に住み続けられる、地域の雇用を創るなど、持続可能な地域の生活や産業に貢献しているといった側面もあります。

このような役割において、湖北圏域地域医療構想調整会議では、**当院を医療と介護、福祉サービスを総合的一体的に提供する地域包括ケアシステムの拠点病院としての役割と機能を確認され、湖北圏域にとって必要不可欠な病院との認識**を共有されたところです。

(2) 特色とする主な機能

医療と介護、福祉サービスを一体的に提供する地域包括ケアシステムの拠点として役割を担ううえで、「医療、介護、福祉の切れ目ないサービスの提供」「地域に密着した機能の整備」を行います。

本施設整備の特色は以下のとおりと考えています。

- ・在宅支援部門の整備
- ・健康管理センターの充実整備
- ・防災の拠点となる整備
- ・人が集う市民のための病院づくり

(3) 診療科

内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、神経内科、総合診療科、外科、整形外科、精神科、小児科、皮膚科、泌尿器科、婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、歯科口腔外科

※現在の18標ぼう科に**総合診療科（院内標ぼう）**を加えます。計 19診療科

(4) 整備病床数

現在	一般病棟 (急性期)	地域包括ケア病棟 (回復期)	療養病棟 (慢性期)	計
	48床	35床	57床	140床

計画	回復期病床		慢性期病床	計
	(一般40床 地域包括ケア病床20床)		60床	120床

2. 地域に求められる湖北やすらぎの里が果たすべき役割

(1) 老健が担うべき役割

湖北やすらぎの里は、介護老人保健施設として入所機能を有し、施設療養・短期施設療養を提供することに加え、通所リハビリテーション、居宅介護支援と幅広い介護サービスの提供を日々、行っております。

当施設においては、**長浜市立湖北病院と一体的に地域包括ケアシステムを構築するとともに、高齢者介護において地域に求められるサービスを提供する施設**として役割を担う必要があります。

現在	入所定員	通所リハビリ定員
	84人	10人

計画	入所定員	通所リハビリ定員
	90人	20人

3. 施設整備方針

(1) 本館整備の考え方

本館は供用開始後40年が経過し、施設・設備の老朽化が進むとともに、患者の待合スペースの不足、患者動線の機能性の低下が生じています。また、病室面積や病棟廊下幅員の一部は、現行の医療法に適合した建物となっていない箇所もあり、**単に修繕や補強による対応では根本的な解決に至らないため、本施設整備において、本館は建替えとします。**

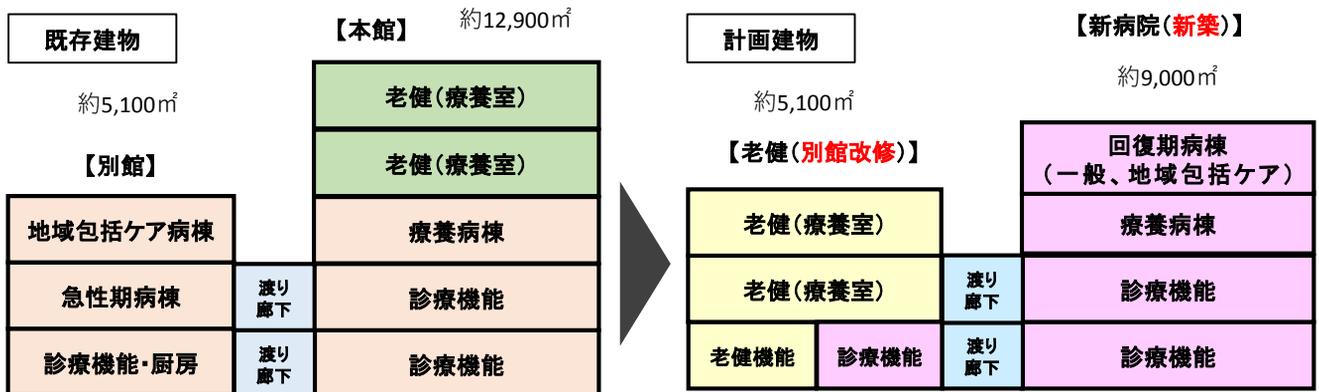
(2) 別館整備の考え方

別館は、供用開始後17年が経過しています。建物本体の耐用年数（39年）は経過していませんが、近年において設備の大規模改修が必要な時期にきています。本施設整備においては、**別館は建物の長寿命化とともに本館4階、5階に位置する湖北やすらぎの里として、改修工事を行うこととします。**

(3) 建物部門構成イメージ

部門構成として、新築建物は病院の診療機能及び病棟（2病棟単位）の整備を検討しています。改修工事を行う現別館には老健機能と一部、病院の診療機能を整備する計画を考えています。〔図表3-1〕

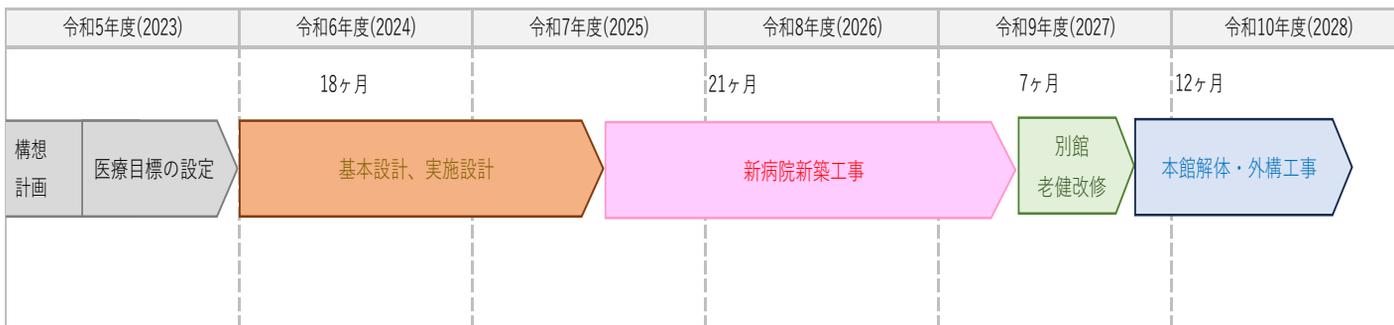
〔図表3-1〕 建替概要図（案）



規模は、類似規模の公立病院の実績データより想定しています。

(4) 整備スケジュール

令和9年7月病院移転開院、別館を老健に改修、移転開所を本施設整備事業として進めます。



4. その他

本施設整備において、病院・介護老人保健施設の整備を進めていくなかで、医療・介護等相談支援センター（市の出先機関として）や災害時における多数傷病者への医療対応及び医療用品の確保、冬季等における安全性、利便性、原子力災害医療協力病院として機器の確保を含めて検討を進めます。